

平成27年5月に、書面をもってお伺いしていた乃木將軍の御靴清掃は、赤坂乃木神社の禰宜 高山陽充さんを介し、京都桃山乃木神社へと伝えられ、先ずは大変ありがたい申し出と喜ばれた。年内は行事が立て込んでおり、出来れば来春では如何か、ということであった。詳細は、京都桃山の乃木神社の責任役員総代 文榮友隆さんがとり仕切っているのので、「直接そちらに電話させます」との連絡が入った。いよいよ長年の夢が動き出したわけである。

台東区の『消費生活展』で、毎年お世話になっている株式会社コロンプスさんの企画部 小高慎吾さんが、協力して下さるといので、効率のよい行動が出来るよう、事前の打ち合わせをして待つことにした。

平成28年3月25日、決行の日である。京都桃山の乃木神社に、午前10時頃には入りたいと思っていたので、東京駅発6時47分の「のぞみ」295号に乗り込み、京都着9時9分、予定通り10時10分頃、JR奈良線「も

もやま」に安着した。この日のスケジュール一切、旅馴れた小高さんが引き受けて下さったので、私はただ従って行くだけでよく、ありがたかった。

ご神体同様の「御靴」に触れることなので、こちらからお願いし、清掃作業前に「御抜い」をしていただいた。

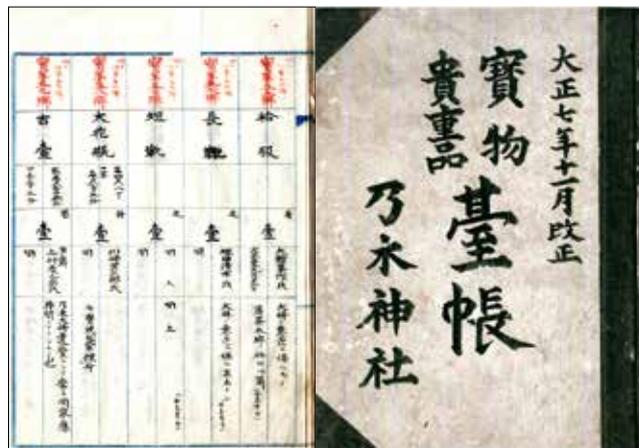
社殿左手に白壁の土蔵があり、その全てが「宝物館」であった。「御靴」は、二階に展示していると伺ったので、一階よりも多少湿気は少ないかと安堵した。

五足ある「御靴」の第一印象は、以前の様な砂埃にまみれた姿はなく、意外にも綺麗な状態だったからうれしかった。拝見して感動したのは、やはり將軍考案の左右同型の「サイド・ゴア・ブーツ」(黒キッド)の三足であった。

作業場は火気厳禁の蔵の中、3月とはいえ底冷えする京都の冷気に包まれ、身も心も緊張する5時間であった。



京都桃山の乃木神社



乃木神社の宝物貴重品台帳